

笑顔で交流 深めた絆

神埼小が福島^{かほり}の被災児童を招待



神埼小学校の招待で、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故のため避難生活を送っている小学生が神埼市を訪問。11月23日から3日間の日程で交流事業が行われました。

神埼市を訪れたのは、福島県葛尾^{かろ}村立葛尾小学校の3〜6年生の児童16人と大和田正恵校長など引率の先生2人です。葛尾村は全域が避難を余儀なくされ、子どもたちは現在、隣町な



▲肩をつかんで列車をつくるゲームを楽しむ子どもたち



▲久しぶりの校歌を元気に歌う葛尾小の児童（右側）



▲勾玉づくりを体験する葛尾小の子どもたち

どに避難。3つの小学校に分かれて学んでいます。

一行は23日夕方に到着。24日には神埼小で交流会が開かれました。迎えたのは同じく3〜6年生の約320人。交流会では歌やゲーム、プレゼントの交換などを楽しんだほか、神埼小4年生によるサプライズ企画、葛尾小学校の斉唱も行われました。葛尾小の児童は他の小学校に分散しているため、校歌を歌うのは久しぶり。笑顔で一緒に元気に歌いました。

神埼小では、1年前の「教育の日」の講演をきっかけに、被災地の子どものために何かできることはないだろうかと考え、青空の下で思い切り遊べるよう招待しようと企画。今年の上学期から手紙やビデオレターで葛尾小と交流を進めてきました。旅費など約90万円は児童、が呼びかけた募金やPTAの活動費、バザー、廃品回収などで捻出しました。両校の児童はこの日が初めての対面でしたが、手紙の交換などしていたことも

あり、すぐに打ち解けた様子で遊びに興じていました。

葛尾小の一行はその後、吉野ヶ里歴史公園を見学し勾玉づくりなどを体験。子どもたちは「神埼の友達はとても優しくしてくれた」「勾玉づくりは角を丸くするのが大変だったけど楽しかった」などと感想を話していました。また最終日の25日は佐賀市でバルーン搭乗も楽しみました。

「S（佐賀）F（福島）青空プロジェクト」と名付けたこの交流は、5年間事業として来年以降も続ける計画だということです。

市のうごき（平成24年11月末日現在）

- 人 □ 33,045人（対前月 -5人）
（男／15,764人 女／17,281人）
- 世帯数 11,317世帯（対前月 +8世帯）